

燈有明命也 燈延命
瞬喻經云 菩燃燈後
世得天眼不生冥靈普
廣經云 燃燈供養照諸
此冥苦病衆生蒙此光
明緣此祐德皆得休息

日本の金石文⑪「南田堂銅燈台銘」弘仁7年（816年）

奈良・興福寺の南田堂の前庭に建てられてあつた銅燈台の銘文である。戦前の「興福寺大觀」には前庭に立つ銅燈台を記載していると記され

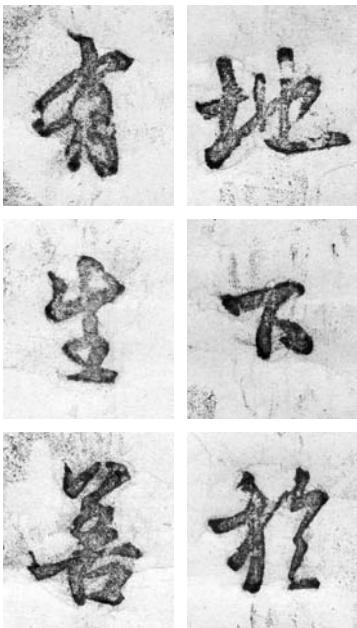
燈台の写真（図版⑤）が示されているが、火舎の銘文はなく、当時の解説には、博物館に保管されていると記され

ている。現在は国宝に指定され、興福寺の国宝館にある。第④回で紹介した「道澄寺鐘銘」や「神護寺鐘銘」と共に平安時代の金石文の名品とされる。銘文の巻頭に、弘仁7年藤原朝臣公人等が先人の遺志に従い、この銅燈台を作らせたと記されている（図版③）。この藤原朝臣公とは、古くからの研究で藤原真夏と推測されている。また銘の撰者や筆者を空海や橘逸勢などと伝えられるが、定かでない。現在、銘文は4面が伝えられているが、末の2面が古くに失われて完全な状態でない（図版②）。書風は、字画がやや太く、重厚な楷書であるが、所々に行書の筆画が見られる（図版④）。以前に紹介した道澄寺鐘銘のようなくびれ詰めた様な趣はない。主図版①は、第2面の6行分を僅かばかり縮小して示した。日本金石文は、今回で終了します。

図版③



図版④



図版⑤



伊藤 滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

図版②



書道芸術院 平成の群像 (2014)



第66回書道芸術院展 峰雲賞 「オリオン」



工 藤 永 翠

「心搖さぶる書」

10年前、弟が鹿児島へ転勤になったことを機に、初めて九州へ一人旅をした。兼ねてから訪れたいと思っていた知覧特攻平和会館へ行くことが一番の目的だった。本州最北端の地で生まれ育った私は、同じ日

書道芸術の競書を出品し始めた頃、初期の院に携わっていた上田桑鳩先生の「書を愛する人へ」という本を読んだ。その中に、「大切なのはその胸に湧き起る情感、そなへてから訪れたいと思っていた知覧特攻平和会館へ行くことが一番の目的だった。本州最北端の地で生まれ育った私は、同じ日

書かれた凜とした文字・文章が心に深く突き刺さり、涙が溢れて止まらなくなつたのを覚えていて。生と死の狭間で書かれた彼らの書は、私に目に見えない何かを与えてくれたような気がしてならなかつた。

今現在、こうして戦争のない平和な日本に暮し、書を続けていられるのは本当に幸せなことだと思う。生まれてきた時代が何十年かれていたら…と思うと計り知れない気持ちでいっぱいになる。師の千葉蒼玄先生は「見る側がふと立ち止まって魅入ってしまうようなインパクトのある作創制作を。」と常日頃から話される。未熟極まりない私には師の言葉通りの書に近づけるかどうかはわからないが、「心搖さぶる書」を目指とし、まだ続く長い書の道のりを一歩ずつ進んでいこうと思うこの頃である。

20代の私は、そのようなことを考える余裕もなく、ただ無我夢中で毎月の競書、展覧会の作品制作を仕上げる日々だった。がしかし、少しづつ年齢を重ね作品に対する想いが変化していった。たくさんの経験をすることが、多くの人の出会い、それらは感情が豊かになり多かれ少なかれ作品自体に反映されるのではないかと思えるようになつたのだ。若い頃には決して表現し得ないもの、長い時間をかけて歩んでいかなければいけないものの、その見えない力・情感がいつしか自身の書の糧となつて紙面に解き放たれていくのではないかと。

20代の私は、そのようなことを考える余裕もなく、ただ無我夢中で毎月の競書、展覧会の作品制作を仕上げる日々だった。がしかし、少しづつ年齢を重ね作品に対する想いが変化していった。たくさんの経験をすることが、多くの人の出会い、それらは感情が豊かになり多かれ少なかれ作品自体に反映されるのではないかと思えるようになつたのだ。若い頃には決して表現し得ないもの、長い時間をかけて歩んでいかなければいけないものの、その見えない力・情感がいつしか自身の書の糧となつて紙面に解き放たれていくのではないかと。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

公益財団法人書道芸術院理事会開催

11月23日、院創立記念日行事に合わせて例理事会が上野精養軒にて開催された。今回は顧問・評議員にオブザバーとしてご出席いただき、本年6月の理事改選以来財団役員全員が顔合わせることとなつた。

議題は①第68回書道芸術院展の運営に関し、2月21日の作品研究会・学生・一般の表彰式・祝賀会の運営方針。②人事関係、③創立70周年記念事業委員会の発足と記念事業内容、④27年度単位認定講習会（宮城県秋保温泉）講師及び運営方針、⑤書道芸術院企画委員会を来年度発足計画、⑥TOKYO書道展2015（川島舟錦・田村鄭雲・山口仙草各氏出品）出品作の68回展での再展示、その他を審議した。詳細は後日院報にて報告予定。

創立記念日講演会「料紙について」

講師 名児耶明五島美術館副館長

同日午後2時より「仮名の料紙について」と題し、スライド映写をもとにユーモア溢れ、また多彩な内容でのお話を伺った。定員を大きく上回る270名余の参加者で会場は満杯であった。「雲紙と飛雲」「藍と紫」「料紙の美」など、



名児耶先生による講演

第66回全国学生書道展審査終了

国学生書道展」は10月末の作品搬入を経て11月6～9日審査が行われた。今回展では半紙部門が微減したものの半切½部門は15%ほど増加し、昨年に上回るご出品をいただいた。ご協力を感謝申し上げたい。

記念日を祝う懇親会が、これも会場いっぱいの参加者で大いに盛りあがつた。全国13の総支局代表からの近況報告、各種展覧会の出品者紹介宣伝など、賑やかに一時を過ごした。名児耶先生ははじめ毎日新聞社事業本部の三岡氏、毎日書道会の西村事務局長も参加いただいた。

高野山開創1200年記念献書事業にご協力を

既にお知らせしたが明年平成27年は高野山を弘法大師様が開創されて1200年の記念の年を迎える。前回150年の折に記念献書が行われ、全国から1160点の作品が寄せられた。本院創設の香川肇、種谷扇舟先生はじめ全書壇挙げての大事業を成功させ、現在の高野山書道協会を設立、競書大会の発足につながった。

今回は全日本書道連盟が全面的に協力、毎日・読売・産経その他を含め全書壇に協力を呼び掛け実施している。既に関係者への出品協力の依頼が届けられているが、一部事務作業が遅れておりご迷惑をおかけしていることをお詫びしたい。

11月期 1月5日～11日
会期中和光ホールでは6、7、10、11日各日午後3時よりギャラリートークを、セントラル会場でも席上揮毫、作品解説会が連日開催される。ご高覧を。

6日 千葉蒼玄解説（セントラル会場）
11日 辻元大雲トーク（和光会場）

自然の情景を生かす日本独特の美意識について、先生自ら撮影された空の雲、庭の木立、枯山水の庭園風景をヒントに分かりやすく解説され聴衆は思わずひきつけられていた。自然との調和、自身の回りの自然美の再現、シンメトリーでない美など、日本人の感性が生きる魅力ある講演であった。

講演終了後、会場を移し恒例の創立記念日を祝う懇親会が、これも会場いっぱいの参加者で大いに盛りあがつた。

全国13の総支局代表からの近況報告、各種展覧会の出品者紹介宣伝など、賑やかに一時を過ごした。名児耶先生ははじめ毎日新聞社事業本部の三岡氏、毎日書道会の西村事務局長も参加いただいた。

個人大賞半紙の部6名、半切½の部4名以下各賞が決定した。来年2月17日より21日まで東京都美術館にて指導者作品展示と併せ展示される。表彰式は2月21日（土）午後1時より帝国ホテルにて挙行。

団体全国優勝は大阪の「竹扇会」、ほか準優勝7団体、優秀33団体、表彰61団体が入賞した。

個人大賞半紙の部6名、半切½の部4名以下各賞が決定した。来年2月17日より21日まで東京都美術館にて指導者作品展示と併せ展示される。表彰式は2月21日（土）午後1時より帝国ホテルにて挙行。

団体全国優勝は大阪の「竹扇会」、ほか準優勝7団体、優秀33団体、表彰61団体が入賞した。

個人大賞半紙の部6名、半切½の部4名以下各賞が決定した。来年2月17日より21日まで東京都美術館にて指導者作品展示と併せ展示される。表彰式は2月21日（土）午後1時より帝国ホテルにて挙行。

国学生書道展」は10月末の作品搬入を経て11月6～9日審査が行われた。今回展では半紙部門が微減したものの半切½部門は15%ほど増加し、昨年に上回るご出品をいただいた。ご協力を感謝申し上げたい。

団体全国優勝は大阪の「竹扇会」、ほか準優勝7団体、優秀33団体、表彰61団体が入賞した。

個人大賞半紙の部6名、半切½の部4名以下各賞が決定した。来年2月17日より21日まで東京都美術館にて指導者作品展示と併せ展示される。表彰式は2月21日（土）午後1時より帝国ホテルにて挙行。

団体全国優勝は大阪の「竹扇会」、ほか準優勝7団体、優秀33団体、表彰61団体が入賞した。

個人大賞半紙の部6名、半切½の部4名以下各賞が決定した。来年2月17日より21日まで東京都美術館にて指導者作品展示と併せ展示される。表彰式は2月21日（土）午後1時より帝国ホテルにて挙行。

現代の書 新春展=今いきづくり墨の華=毎日チャリティ書展も銀座画廊で同会期に

14回目となる「現代の書 新春展」は銀座和光ホールにて（一財）毎日書道会顧問・理事監事による29人展、セントラルミュージアム銀座での100人展は毎日書道展審査会員から65歳以下の選抜メンバーにより開催される。

*会期 1月5日～11日
会期中和光ホールでは6、7、10、11日各日午後3時よりギャラリートークを、セントラル会場でも席上揮毫、作品解説会が連日開催される。ご高覧を。

6日 千葉蒼玄解説（セントラル会場）
11日 辻元大雲トーク（和光会場）

漢字(三)

濱田尚川

篆刻・刻字(三)

後藤大峰

作品は生まれる

天来先生からのことばです。

「臨書第一期は絶対的手本本位、一点一画ゆるがせにしないよう写実的に臨書すること。好きな古典だけではなく嫌いな古典も臨書すること。臨書することによって小さい自分を捨て成長していくのですが、そうすることによつていくのです。



全紙3曲 県美術家協会展出品 平成5年

濱田尚川書

この作は、柔らかくて明るい作品をと…力が入りすぎて硬くなったり、流れが切れたり、仲々リズムが出なかった。横への広がりと息の長さでゆとりも考えたり、書き込む中で動きも大きく貫通していく流れへと…。だんだんと白が生きてきて楽しく出来た。

21世紀の書

—私の主張—



「街」

後藤大峰刻

前回、この一連の作品を創るには一般的な篆刻の常識を捨てなくてはないと申し上げました。が他部門の前衛的な作品を創作される作家の先生方もそうだと思いますが古典を踏まえて新しいものを生み出すことの大変さは想像を超えるものがあります。ただ大きいことを言わせてもらうと新しいことを創りだすには古いもの（古典）を壊さなければ発展はないと言う事です。今、古典と言うものを生み出した先人達も当時は古典ではないのです。前衛とは言わないまでも、往時はやっぱり新しいものだったのです。近年亡くなられた、ある大御所の歌舞伎役者が「古典は古典で大事だが新しい事に挑戦しなければ歌舞伎の未来はない」と生前申したことがありました。正にそうだと思います。新しいものを創りだす、我々よりも一世代、或いは二世代前の方々の御苦労は挑戦した者ではないと判らないものが多くあります。

そんな中、創った作品です。



全紙3曲 県美術家協会展出品 平成5年

濱田尚川書

この作は、柔らかくて明るい作品をと…力が入りすぎて硬くなったり、流れが切れたり、仲々リズムが出なかった。横への広がりと息の長さでゆとりも考えたり、書き込む中で動きも大きく貫通していく流れへと…。だんだんと白が生きてきて楽しく出来た。

書によつて絶えず新たな世界を拓き自らの作品を変貌していくことを願つていたのです。—臨書しながら変わろう。

先生は陳腐と習気を嫌いました。臨書によって絶えず新しさを拓くことを願つていました。—臨書しながら変わろう。

この作は、柔らかくて明るい作品をと…力が入りすぎて硬くなったり、流れが切れたり、仲々リズムが出なかった。横への広がりと息の長さでゆとりも考えたり、書き込む中で動きも大きく貫通していく流れへと…。だんだんと白が生きてきて楽しく出来た。

平成26年度 新審査会員作品

II

奥藤春葉（漢）・松本泰泉（か）・磯地白麗（現）・大友紅蓉（前）

奥藤春葉
(大阪)

「歩」
「一步、一步」



「書」を始めて気がつけば四半世紀。今日までお導きいた

だ

いた恩地先生、諸先生方に

感謝しつつ「技を磨くことは

勿論ですが、心を磨くことを

怠っては、一番大切な書の魅

力を失ってしまう。」と申さ

れた先生の言葉を肝に銘じて、

これからも一步一歩、精進を

重ねて行きたいと、思いを新

たにしております。(春葉)



磯地白麗
(岩手)

「この道しかない春の雪降る」
種田山頭火句

山頭火の句が心に響き、心
を込めて書きました。師匠の
温かい御指導を受け、仲間の
支えもあり、ここまで来る事
が出来ました。書は今や、私
にとって心を豊かしてくれ
る大切なものとなっています。

これからも、奥深い書の道
を精進して参ります。(白麗)



大友紅蓉
(宮城)

「愛」

現在の自分の心境を「愛」

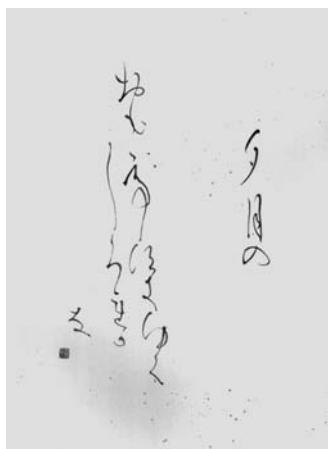
という字に託し書作しました。

闘病中の母に対する多くの人
々の愛情に感謝し、その大き
な愛を点や線、造形で力強く
表現してみました。心に響く
書を求め試行錯誤の制作です
が、前衛書の魅力は、ひとし
おです。師を始め書友の皆さん
に感謝し精進して参ります。(紅蓉)



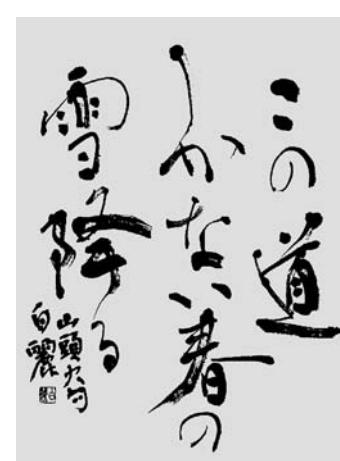
松本泰泉
(群馬)

「夕月のおもてすぎゆく
しぐれかな」正岡子規句



諸先生方のご推挙をいただき、思ひもよらぬ審査会員への昇格に感謝すると共に重責を感じています。

下谷洋子先生の温かいご指導に幅広く学ぶことの大切さを実感しつつ、かなの持つ深みの追求を心がけ、表現に生きせるよう歩んでいけたらと思ひます。(泰泉)



磯地白麗
(岩手)

「この道しかない春の雪降る」
種田山頭火句

山頭火の句が心に響き、心
を込めて書きました。師匠の
温かい御指導を受け、仲間の
支えもあり、ここまで来る事
が出来ました。書は今や、私
にとって心を豊かしてくれ
る大切なものとなっています。

これからも、奥深い書の道
を精進して参ります。(白麗)



大友紅蓉
(宮城)

「愛」

現在の自分の心境を「愛」

という字に託し書作しました。

闘病中の母に対する多くの人
々の愛情に感謝し、その大き
な愛を点や線、造形で力強く
表現してみました。心に響く
書を求め試行錯誤の制作です
が、前衛書の魅力は、ひとし
おです。師を始め書友の皆さん
に感謝し精進して参ります。(紅蓉)

平成26年度 新審査会員作品

II

笠見梅香（漢）・氏家久光（現）・大野礼子（前）・木佐貫鮮水（漢）

笠見梅香
(鳥取)



「麗」

ゆったりとした大きな動きとバランスに気を配りました。

山陰支局で先生方、先輩方が多くの刺激を受け『書』を学んでまいりました。今後もより一層精進してまいりたいと思います。
(梅香)



大野礼子
(富山)

「結（ゆい）」

「塞翁が馬」この一年間、

公私ともに試練が続きました。そんな中で「結」力をそえて助けること、この言葉が心に響きました。沈着の思いを搖るぎない強い線で表現することを心がけました。先生方や書友に恵まれたことに深く感謝し、感性を磨き、作品に生かされるよう精進いたします。
(礼子)



木佐貫鮮水
(大阪)

「河」

枯樹賦の臨書を勉強中です。

その中の一つ「河」を選びました。文字のリズムをつかみ、呼吸の変化を意識して書きました。又、書く時の気持ちが大事です。ゆったりとした気持ちで書ける状況を作り出します。動きのある上田桑鳩氏の臨書をお手本にしました。手首を柔く気楽に書くことで体中に「氣」が巡ります。その文字から良い「氣」を感じられるものをめざしたいです。
(鮮水)

氏家久光
(富城)



「朝寒やたのもと響く内玄関」
正岡子規句

筆と遊ぶこと四十年、今は、退職を機に昨年より書道教室を開き子供達と共に遊んでいます。写真版を楽しみに書道芸術に毎月出品し、結果を見ては一喜一憂していましたところ、図らずも審査会員に推挙されました。翠苑先生はじめ宮城野書人会の各先生方、書友に感謝しております。
(久光)



「麗」

平成26年度 新審査会員作品

金濱珀燁（現）・岩沢芳仙（前）・大西香蘭（現）・木村香翠（漢）



金濱珀燁

「あめんぼう忍者の」とく
水面ゆく」 尾形崇の句



皮珀輝
(宮城)

この作品は、細緻を取り入れた文字群と余白を広くとった構成で、句のイメージを大切にし、素直にその情景を表現しました。古典の学習を通じて線質を鍛え、魅力ある現代詩文書の制作をめざしたいと思います。今までご指導下さいました先生方、書友の皆様方に深く感謝申し上げます。

(珀燁)



岩沢芳仙



花

この度は審査会員にご推举いただき感無量です。幸い熱心にご指導いただきました板垣洞仙先生はじめ良い仲間に恵まれました。

今回の
見
る
者
の
心
に
感
動
が
伝
わ
る
よ
う
に
書
の
道
に
邁
進
し
ま
す。

（芳仙）



木村香翠



「報恩」

幼い頃より師匠である母の指導を受け山陰支局の先生、回りの方々に支えられて今の私があると思っております。少しでも恩に報いる事が出来る様に、いつの日か、人が立ち止まり鑑賞して戴ける様な魅力ある作品が出来る様に、研鑽していくきたいと思います。



A black and white portrait photograph of Dr. Linda Lee, a woman with short dark hair, wearing a light-colored collared shirt.

大西香蘭

愛らしい百舌鳥になればと淡墨を選びましたが、少しほんやりしてしまいました。淡墨と羊毛超長鋒、まだ思うように操れず四苦八苦しますが、思わぬ表情を見せてくれることがあり、もう一枚、もう一枚と書きたくなるような魅力があるように思います。

(香蘭)



平成26年度 新審査会員作品

佐久間玉流（現）・工藤溪舟（刻）・龜井紫風（前）・坂本大龍（漢）



龜井紫風
(群馬)

「色」

「どんな色に染まるかな」ではなく、自分の色を求めて続け、十数年苦しみ、ようやく、暗い闇から抜け出し、気持ちが吹き切れたのは、ほんの数年前。師倣横堀艸風先生の教えを念頭に、自分なりの書(色)を追求しております。己れに妥協せず、でも「楽しみ」としての書を続けられたると思います。

(紫風)



佐久間玉流
(宮城)

「一りん咲けばまた一りんのお正月」

種田山頭火の句
東日本大震災から3年が過ぎました。

日常生活が続く事が幸せである事を実感しています。それでこの句を選びました。良き師と仲間達のお陰で続けてこれました。私のモットーは「継続は力なり」これからも一步一歩精進して自分らしい作品が書けるようこの道を進むつもりです。

(玉流)



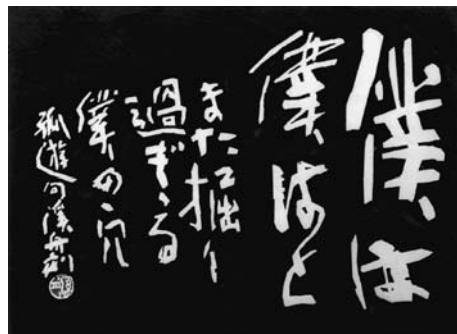
坂本大龍
(高知)

「鶴」

この度は、審査会員にご推薦いただき、深く感謝申し上げます。なお一層の精進を重ねて参りますので、今後とも、ご指導の程よろしくお願い申上げます。

今年も本市に「鶴」が飛来しました。(作品は)その姿を表現してみました。

(大龍)



工藤溪舟
(青森)

「僕は僕はとまた掘り過ぎる僕の穴」
「内山孤遊の句」(刻)

地元の川柳作家の句を凸刻金箔仕上げにしました。刻字は篆刻から派生した分野なので必然的に篆書体の作品が多くなりますが、私の中央展挑戦は詩文書から始まりましたので、「読める刻字」を中心に活動し、普及に努めたいと思います。

(溪舟)

平成26年度 新審査会員作品

II

鈴木承琳（現）・田子恵琉（前）・高野桂華（漢）・竹内彩苑（現）



鈴木承琳
(宮城)



「伊豆の海紅梅の上に
波ながれ」水原秋桜子の句

情景を大事に構成、余白美
を求めて。文字造形はいつも
課題となります。

今を生きるその息吹きを表
現したい。遠い夢に向かい精
進してまいります。多くの方
のお導きに心より深く感謝申
し上げます。
(承琳)



高野桂華
(鳥取)



「心」

明治天皇御製

目に見えぬ神の心に通ふこそ
人の心の誠なりけり

孫の出身大学の校歌でした。こ
深く心に残っており、筆の趣
くままに書いてみました。こ
れまでご指導頂いた先生方に
感謝の心を忘れず、精進して
参りたいと思います。

(桂華)



竹内彩苑
(茨城)

「照紅葉」

数年前、兄妹と旅行に出かけ、ホテルの庭一面の真赤な紅葉の美しさに感動、以前に詩集で読んだ景色と全く同じだったからです。入浴もそこに幼い日を懐かしく思い出し、話は尽きませんでした。多くを見、多くを読み感動した事を素直に表現出来たらと思っています。
(彩苑)



田子恵琉
(群馬)



「樹」

師北村白琉先生はじめ白玄
会の諸先生の暖かいご指導と
書友に支えられ、筆が持てる
喜びとともに書の奥深さを痛
感しております。樹木のよう
に大地にしつかりと根を張り
これからも精進したいと思い
ますので、今後共ご指導をお
願い致します。
(惠琉)

鈴木承琳（現）・田子恵琉（前）・高野桂華（漢）・竹内彩苑（現）

II



始平公造像記（北魏）③

漢字研究部臨書課題

II（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字臨書してもよい。

〈解説〉 この仏龕は古陽洞の入り口から最も近いところに造られており、古陽洞の開鑿に際し、周到な配慮のもとに題記が刻されたものと思われる。文字は肉太であるが鈍重な感はない、

厳しさと量感を兼ね備えている。一見して側筆を思わせるほど角張った線質だが、悠々とした安定感があり、六朝書風の最大るものと言えよう。

（編集部）

※落款を必ず入れる
署名、もしくは〇〇臨
(押印のみ也可)



(95%縮小)

代。茲功厥作。比丘慧威。自以影灌玄流。邀逢昌

右衛門切
(伝
寂蓮)

③

129

特別研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
 別紙を裁断して貼付も可。半懷紙は半紙サイズに切って使用のこと。
 左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

※落款を必ず入れる
 署名、もしくは
 ○○臨
 (押印のみも可)

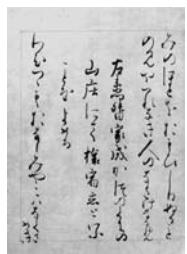
(90%縮小)

〈解説〉
 右衛門切の伝称筆者寂蓮は、歌人として後鳥羽上皇に高い評価を受け、後鳥羽院歌壇の中心的存在だった。

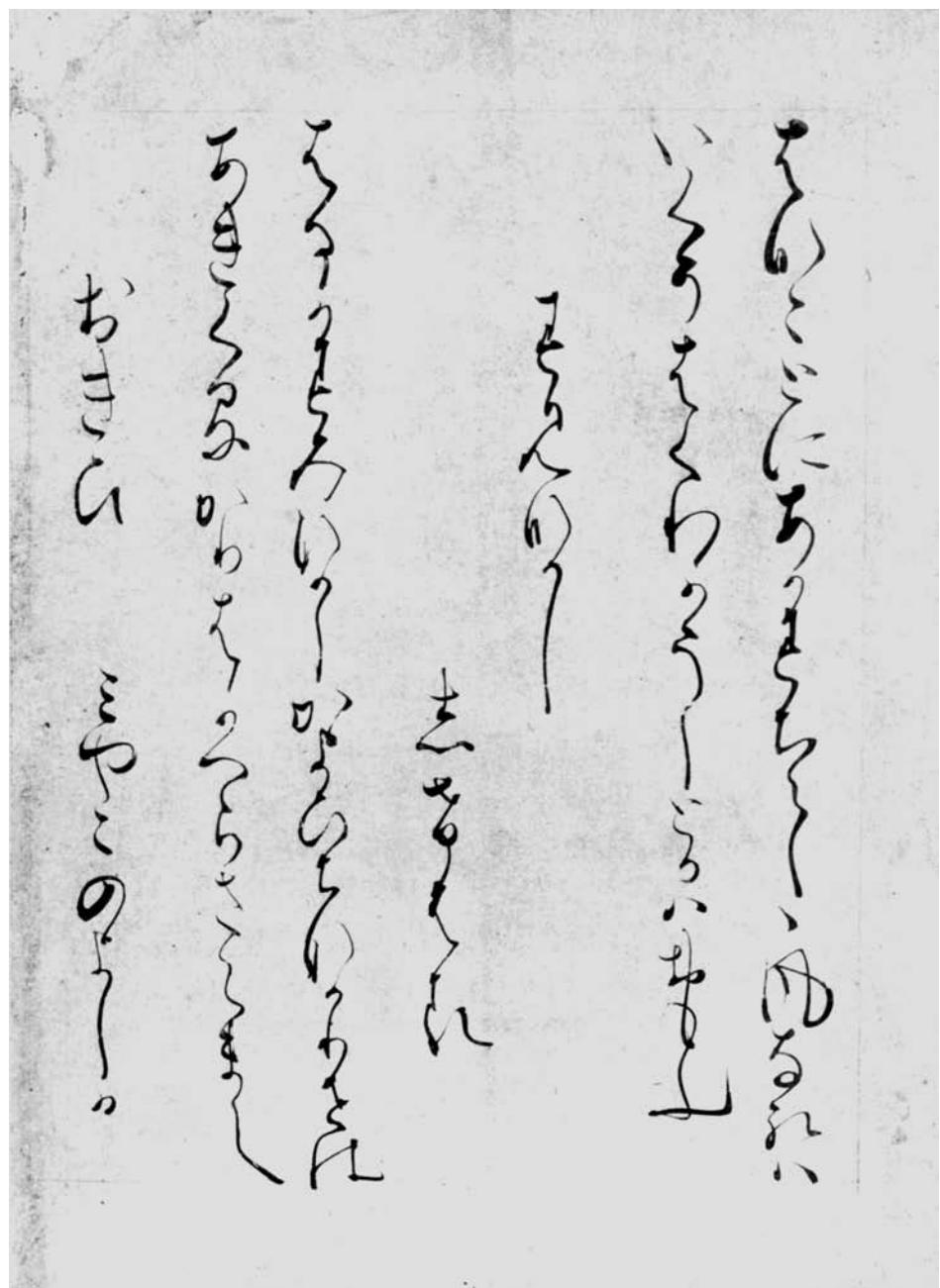
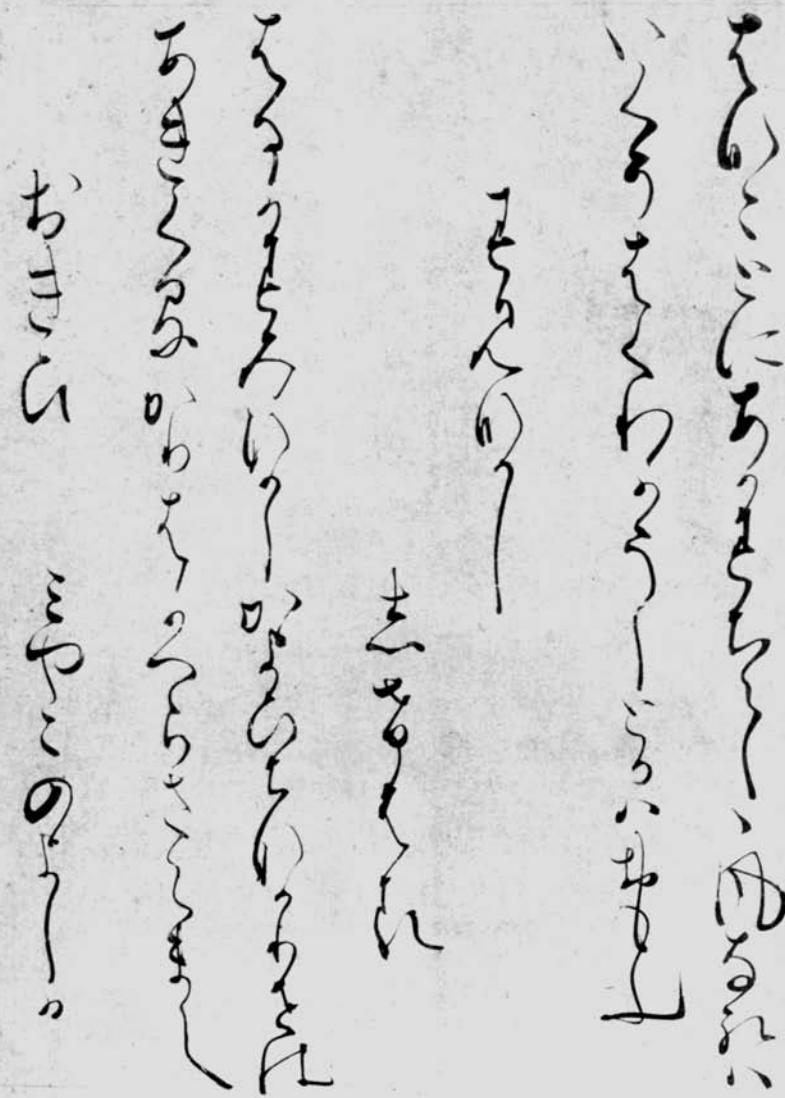
寂蓮の真筆には懷紙が残っているが、懷紙と和歌では書写形式に大きな相違があつても、やはりこの右衛門切の書風は寂蓮とは言いがたい。

また同じく寂蓮と伝わるものに、『詞花集』『千載集』の断簡がある。右衛門切同様薄墨の枠があり、特徴が似ているため「右衛門類切」と呼ばれている。鎌倉時代になると、絵巻の詞書に右衛門切に近似している書風が多く見られる。これらは“寂蓮様”と呼ばれ、流行した様子がうかがえる。

(編集部)

右衛門類切
(畠山記念館蔵)

よみ
 はなごとにあかずちらしゝ風なれば
 いくそばくわがうしとかはおもふ
 すみながらし
 しげはる
 はるがすみなかしかよひぢなかりせば
 あきぐるかりはかへらざらまし
 わきひ
 みやこのよしか



習い方解説 (三)

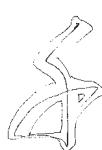
小林琴水

不遠千里 (四字熟語新辞典)
(千里を遠しとせず)

千里の道も遠いとは思わない。

曲線と直線を生かせるようにバ
ランスよく…

小さく



書体=自由



不遠千里 よみ (千里を遠しとせず)

習い方解説 (三)

種谷萬城

遠大之慮
(遠大の慮)

(新論)

「遠大之慮」(遠い将来まで推し
量った大きな計画のこと)

目先の子細なことに囚われず、
大きな目標を立てて、書の学習を
しましよう。悠久の歴史を持つ書
は、計画性を持って、幅広く、そ
して深く学びましょう。

今月は、初唐の三大家の一人、
虞世南(558~638)の書・
『孔子廟堂碑』の書風で倣書しま
した。虞世南の楷書は温雅な趣で
す。直筆(筆管を垂直に立て、穂
先が画面の真ん中を通るように書く)
勢(字の中程を外側にふくらませ
た形)で、整っています。情的、
柔軟で、穏やかです。形はやや向
上品、控えめ等と形容がされ、完
成度が高く、楷書の名品の1つで
す。品性の高さを感じます。

遠大之慮 よみ(遠大の慮)

萬城書

書体=楷書



石井明子

歌意は、去りゆく年の行方を尋ねると、人の身に留って、1歳ずつ年を授けてゆくのであるらしい、

人こそひとつ設くべらなれ

(源実朝)

です。私の子供の頃、お正月には等しく皆、1歳年をとっていました。数え年と満年齢の2種類が使われていた時代でした。

源実朝(1192-1219)

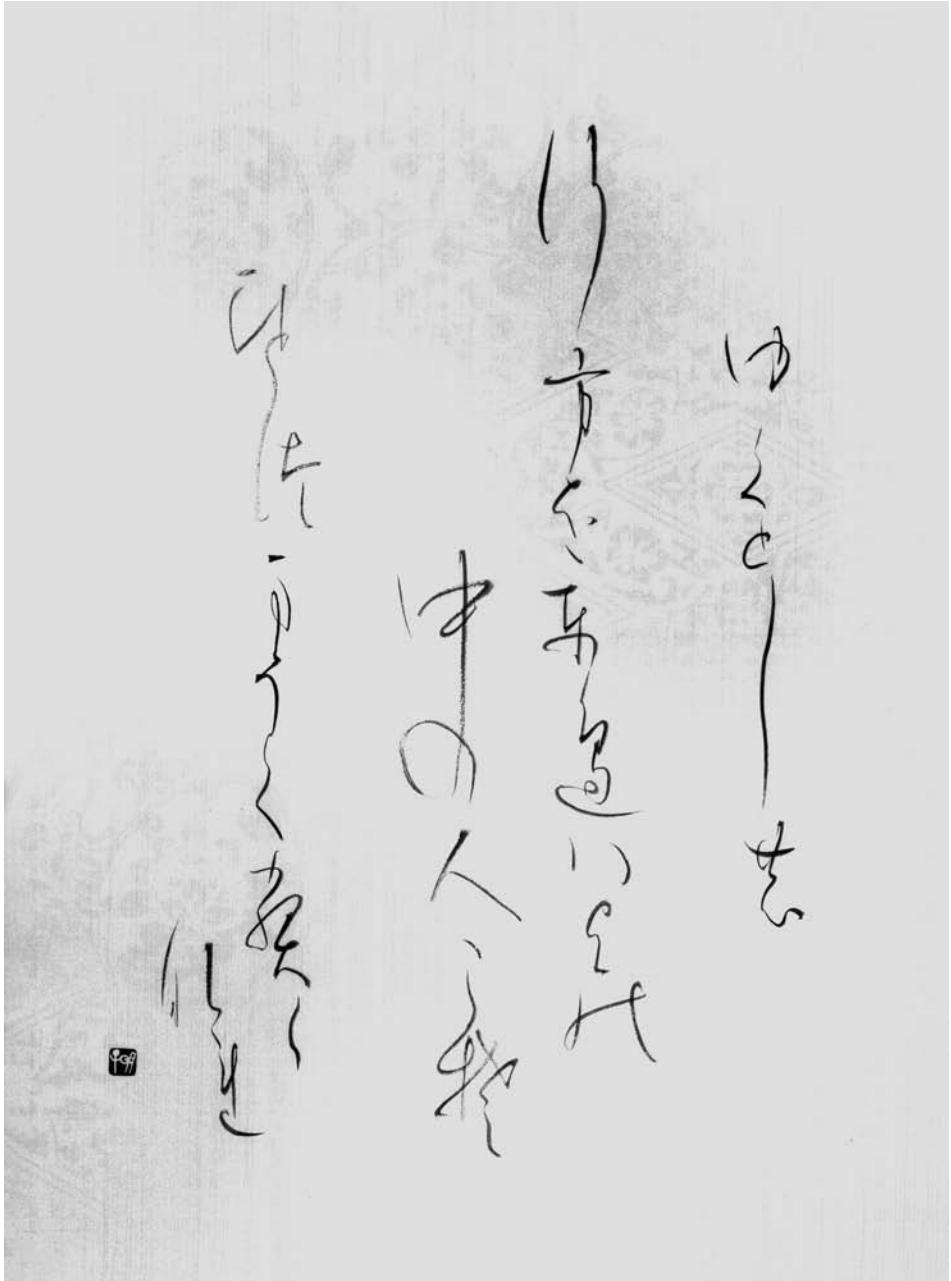
は28才の若さで殺害された悲運の將軍ですが、歌人としての完成度を考えると、早熟だったと思われます。

しなやかな連綿に憧れながら、一字ずつをきちんと書いてしまう癖から離れたいと願っていますが果せないです。自然な流れに従い、ゆっくり運筆することを心がけました。諺、「美は見る人の眼の中にある」を信じて、様々なことに心を開き、美意識を高める努力を続けたいのです。

よみ方 ゆく(久)としの(農)行方をと(東)へ(辺)ば(八)よ(与)の(能)中の

人こそ(楚)ひとつ(徒)ま(万)うく(久)べ(弊)らな(那)れ(連)

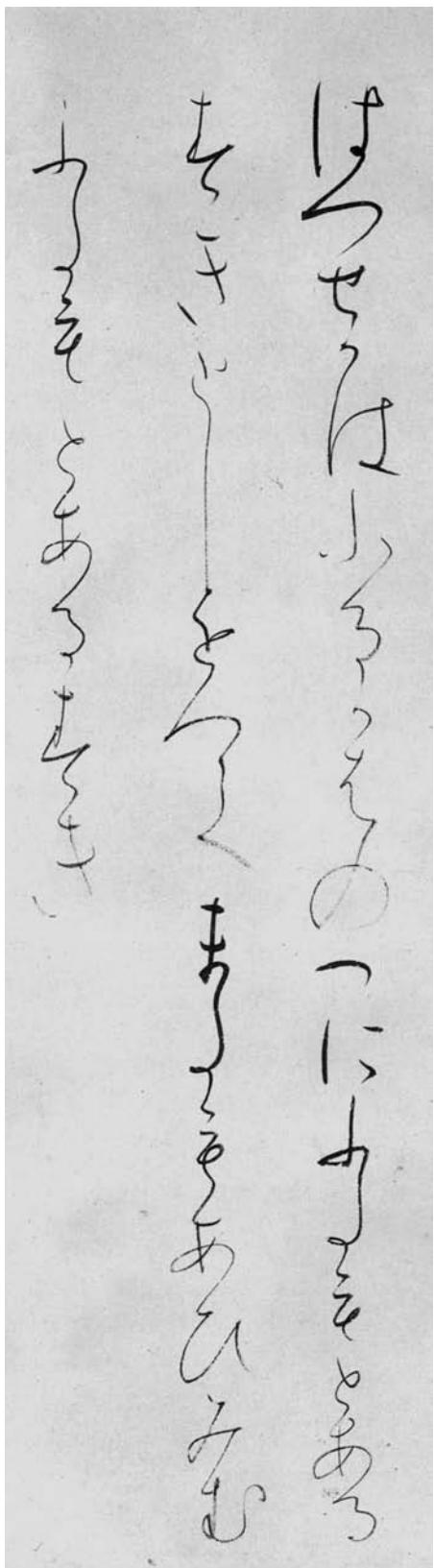
創作



かな規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小85%)



よみ方 はつせが(可)はふるか(可)は(者)のべにふた(多)も(毛)とある
す(春)ぎとしをへて(豆)また(多)も(毛)あひみむ
ふた(多)も(毛)とあるす(春)ぎ

かな条幅規定【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

木村東舟選書

書初やつるしの如き大硯かきわら

(杉田久女)

習い方解説 (三)



日頃身近な「書」に関する句を
選びました。大きな硯で書初を楽
しむ様子が伺えます。俳句を書く
時は、句意を損ねぬようなるべく
文字の交換は避けたいですが、表
現の美しさも考え時には変体仮名
も使います。文字数が少ないので
思いきり筆を走らせ書きましょう。

よみ方 書初やつるしのじと(登)き大硯おだすず

創作

*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田 藤 扇選書

習い方解説 (三)

半田 藤 扇

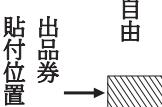
今日は、横形式で20文字。まず書作する一步は、文字の配分です。

横の場合は、たてよりも行数が多いので、その行の中心部分が大切

です。まん中のスポットがうまく決まるように、試行錯誤しながら

いろいろと書いてみましょう。文字の大小も作品創りでの効果とも成り得ることです。

筆は宿純羊毫の短めを使用。
書体=自由



孤舟暮歸去 別路江南樹 煙外有鐘聲 故人在何處
(孤舟暮に歸り去る 別路江南の樹 煙外鐘聲有り 故人何處に在る)

(王瑤湘)
(王瑤湘)



習い方解説 (三)

大野祥雲

大野祥雲選書

漢字条幅規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

書体=自由

強大なものはさらに上にあがることを考えずに、常に下についてへりくだる態度があれば自然に大きくなれる。
用筆は方円両用です。始筆、転折が鋭くなったり、軟くなったりしています。伸びやかに運筆しました。素材からして豊かで深さと重さがほしいところですが、逆の結果になりました。



(老子)

大者宜為下
(大なる者は宜しく下ること為すべし)

山行

唐 岩 碧 水

遠く寒山に上れば石徑斜めなり

白雲生ずる處人家有り

車を停めて坐に愛す楓林の晩

霜葉は二月の花よりも紅なり

かなは漢字より小さく、変体がなは
使用しないので、流れを生かすため、
自然な連綿のみにします。

かなは漢字より小さく、変体がなは
使用しないので、流れを生かすため、
自然な連綿のみにします。

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

碧水書

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホーリー作品
各部総評 No. 642



漢字部 師範 大川 百雲
百雲

柔和で暢びやかな線が心地よく、ゆったりとした気分になる。漢碑を学び創意が加えられた佳作。

◎漢字部総評 上級は行草書作品が多く、語句の如く奔放な佳作が多見された。他にも創意溢れる秀作が見られた。

(萬城評)

漢字条幅部 師範 森田 藤谷
鋭い細線をベースに爽快なりズムを醸す作。明るく軽快な運筆が心地よさを感じさせる。

◎漢字条幅部総評 条幅表現は半紙より表現の幅が広く工夫が必要です。書体書風の変化や用具用材など色々工夫研究を。(大雲評)



現代詩文書部 特選 永井 厚子
厚子

筆の弾力を活用した、太細、重軽の抑揚が効果的に調和している。構成も伴い情景が伝わる快作。

◎現代詩文書部総評 出品者の探究心により、狙いが明快な作品が増えました。誤字に注意! (鄭雲評)



前衛書部 特選 波多 祥舟
波多

丁寧な運筆で余白に力を与え左上のクロスが何やらの感をもたらし莊厳さを醸し出した。

◎前衛書部総評 魅力作りのために線を書き過ぎず、制作意図が理解されるよう留意してほしい。(慧香評)



かな条幅部 師範 山本由美子
山本由美子

かな条幅部総評 変体がな年のためらいのない流れが美しく、墨色、墨量が申し分ない。總てにひかえめが品格を高め、秀逸です。

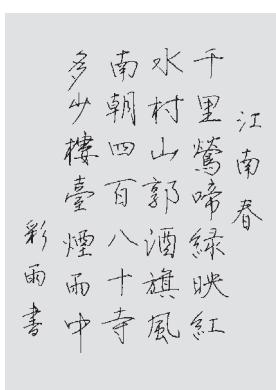
◎かな条幅部総評 變体がな年の誤字散見、要注意。行間の寄りすきは息苦しいので要研究。無難、小ぢんまりから脱出を。(明子評)



漢字条幅部 師範 伊藤 道子
伊藤道子

ペン字部 師範 吉瀬 彩雨
吉瀬彩雨

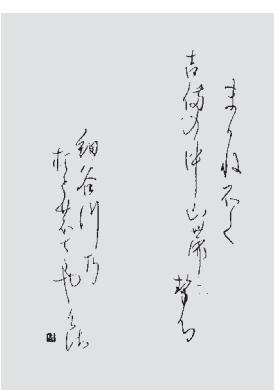
穂やかな中にゆとりのある美しい行書。漢字だけの課題を落款まで布置が一貫した温雅さ光る作。◎ペン字部総評 漢詩の課題を楷書でうまく表現した良い作品がかた。バランスと余白美をいかに表現するか工夫して。(和楓評)



かな部 師範 岩瀬 祥園
岩瀬祥園

重心を下げ、落ち着いた中にリズムの俊敏さが輝く。少しの変化だが、オリジナルを窺せ好ましい。

◎かな部総評 概ね、手本をよく理解して無難にまとめました。下位の方は字の大きさ、線の太細、墨量など一考のこと。(洋子評)



漢字条幅部 師範 佐々木 伸也
佐々木伸也

今月の

特別研究部 優秀作品(特選)

◆ 体重を乗せた力強い筆力。紙の広さがあればもっと大きく表現する事が出来たのではと、すばらしい。

(倫子評)

◆ ゆったりとした運筆で広がりが感じられる。上下に分けて空間をとったのも雄大さにつながったか。

(蒼玄評)

◆ 平面の作品とは思えない、もつたりと絡みつくような重さを感じるのは、私だけ?誕生の重さ?か。

(明子評)

◆ ダイナミックな重量感ある線の動きが魅力の作。潤滑の変化が鮮明な印象を与えていた。

(大雲評)



180×54cm

前衛書 (白珠) 西山裕人 「誕生」

西山裕人書

西川藤象書

180×54cm

漢字 (もく) 西川藤象 「七里灘」

◆ つい口ずさみたくなるような字の動きが巧妙で全体の構成が引き立ち、墨色が立体的に見えてくる。

(倫子評)

◆ やや細身の冴えた線がリズムを醸し明るく爽やかな3行書。下部やや筆力が不足気味、厳しさを。

(大雲評)

◆ やや細身の冴えた線がリズムを醸し明るく爽やかな3行書。下部やや筆力が不足気味、厳しさを。

(明子評)

◆ 感性豊かな作家の過不足ない作品とお見受けします。完成度の高さが魅力を欠くことにならぬよう。

(蒼玄評)

現代詩文書 (蒼原) 金濱珀燁 「崇の詩」

◆ 前半3行の広がりを後半2行でバランスよくひき始めた作。軽妙なりズム大小の変化が小気味よい作。

(大雲評)

◆ 詩に書かれている思いが、筆によつて表現されたのでは。字の大小なりズムを表現してくれている。

(倫子評)

◆ まず構成に引きつけられました。前半を2行半にして、後半との余白が効果的です。字形に趣あり。

(明子評)

◆ 羊毛のやわらかさを表出し線に温か味が感じられる。まとめ方も良いが後半もう少し軽くしては。

(蒼玄評)



135×70cm

金濱珀燁書

漢字 (もく) 西川藤象 「七里灘」

◆ つい口ずさみたくなるような字の動きが巧妙で全体の構成が引き立ち、墨色が立体的に見えてくる。

(倫子評)

◆ 針のような線を多用し、鋭さと明るさが魅力である。字形で左右対称になつたものがあるのは残念。

(蒼玄評)

◆ 感性豊かな作家の過不足ない作品とお見受けします。完成度の高さが魅力を欠くことにならぬよう。

(明子評)

漢字研究部 (始平公造像記)

選評 小 伏 小 扇

今月のホープ作品



宮内成子

漢字研究部 特選 宮内 成子

漢字研究部

しょう

しょう。
使用する筆の大きさ、毛の硬さ、墨の濃さ
も作品の出来映えを左右します。

始筆、堂々とした作品です。
字数の選択、余白のとり方も申し分ありません。

淡墨使用の作品も数点ありましたが、力強さに欠けると感じました。造像記は素朴な中に、緊張感と氣魄がある点に注意したいのです。

宗靡尋 容像	靡尋 容像	靡尋 容像	靡尋 容像
攀宗靡 尋容像	靡尋 容像	靡尋 容像	靡尋 容像
容像	攀宗靡 尋容像	容像	容像
豈平臨 豈平臨	攀宗靡 尋容像	豈則	豈則
容像	容像	容像	容像
攀宗靡 尋容像	容像	攀宗靡 尋容像	攀宗靡 尋容像
豈平臨 豈平臨	容像	豈則	豈則
容像	容像	容像	容像
攀宗靡 尋容像	容像	攀宗靡 尋容像	攀宗靡 尋容像
豈平臨 豈平臨	容像	豈則	豈則
夫靈	容像	夫靈	夫靈
攀宗靡 尋容像	容像	靡尋 容像	靡尋 容像
豈平臨 豈平臨	容像	夫靈	夫靈

由美子
季 茄 郎 開 潤 風 清 一 炙 茄 郎 開 潤

鶴綾昭純泉純
豊美華平憲泰

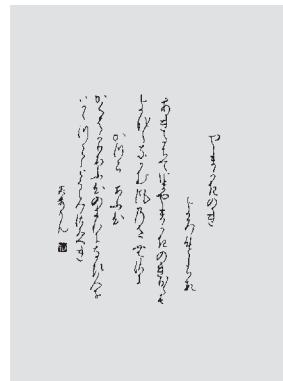
綠臯祥蒼藤小
水日雪竹玉秋

惠優惠蒼美翠
子子皇季梢江

か な 研 究 部 (右衛門切)

選評 善養寺 紅 風

今月のホープ作品



山村炎秀

かな研究部 特選 山村 炎秀
古筆の特長である太細の変化、墨色、彈力のある線が見事に表現されています。ゆったりとした一定の速さで書かれ、安定感のある作品となりました。
◎かな研究部總評

かな研究部成績表